

新型コロナウイルス感染症と予防接種 説明書

1. 新型コロナウイルス感染症について

高齢者や基礎疾患のある方が感染した場合は、重症化するおそれがあります。

感染対策として「マスクの着用を含めた咳エチケット」や「手洗い(手指消毒)」、「換気」等が効果的です。

感染予防を心がけ体調を整えるようにしましょう。

2. 新型コロナ予防接種の有効性

新型コロナワクチンについては、人や動物における国内外で実施された研究などにより、新型コロナウイルス感染症にかかった場合の入院や死亡等の重症化等を予防する重症化予防効果が認められたと報告されています。

3. 副反応

接種後に注射した部分の痛み、疲労、頭痛、筋肉や関節の痛み、寒気、下痢、発熱等がみられることがあります。稀な頻度でアナフィラキシー(急性のアレルギー反応)が発生したことが報告されています。もし、アナフィラキシーが起きたときには、医療機関ですぐに治療を行うことになります。また、mRNAワクチンでは、頻度としてはごく稀ですが、心筋炎や心膜炎を疑う事例が報告されています。

4. 接種前の注意

- 疑問点等は、接種前に担当医師に質問し、十分に説明を受け理解した上で接種しましょう。
- 予診票は接種する医師にとって、予防接種の可否を決める大切な情報です。基本的には、接種を受けるご本人が責任を持って記入し、正しい情報を接種医に伝えましょう。
- 説明書をよく読み、必要性や副反応についてよく理解しましょう。

5. 予防接種を受けることができない人

- ① 明らかな発熱(通常37.5℃以上)のある人。
 - ② 重篤な急性疾患にかかっていることが明らかな人。
 - ③ ワクチンに含まれる成分により、アナフィラキシーを起こしたことがある人。
- ※「アナフィラキシー」とは、通常接種後30分以内に起こるアレルギー反応のことで、発汗・顔の腫れ・じんましん・吐き気・嘔吐・息苦しさなどの症状に続き、血圧が下がっていく激しい全身反応です。
- ※上記①～③に該当しなくても、医師が接種不相当と判断した時は接種できません。

6. 予防接種を受けるに際して、担当医師とよく相談しなくてはならない人

- 過去に免疫不全の診断を受けた人、近親者に先天性免疫不全症の方がいる人
 - 心臓、腎臓、肝臓、血液疾患や発育障害などの基礎疾患のある人
 - 過去に予防接種を受けて、接種後2日以内に発熱や全身性の発疹などのアレルギーが疑われる症状がでた人
 - 過去にけいれんを起こしたことがある人
 - ワクチンの成分に対して、アレルギーが起こるおそれがある人
- ワクチン接種は体調のよいときに受けるのが基本ですので、特に基礎疾患のある方は、病状が悪化していたり、全身が衰弱している場合は避けた方がよいと考えられます。ご心配な方は、主治医にご相談ください。

7. 接種後の注意

- 予防接種後30分間は急な副反応が起こることがあります。医師とすぐに連絡が取れるようにしておきましょう。また副反応は24時間以内に現れることが多いので体調の変化に注意しましょう。
- 入浴は差し支えありませんが、注射をした部位を強くこすことはやめましょう。
- 接種当日はいつも通りの生活をして構いませんが、激しい運動や大量の飲酒は避けましょう。
- 抗凝固療法を受けている人、血小板減少症または凝固障害のある方は、接種後の出血に注意してください。

8. 予防接種による健康被害救済制度について

新型コロナの定期予防接種を受けた方に健康被害が生じた場合、その健康被害が接種を受けたことによるものであると厚生労働大臣が認定したときは、給付を受けることができます。

詳しくは厚生労働省のホームページをご覧ください。

予防接種健康被害
救済制度について
(厚生労働省)

